ふくしまの今

「奥州関門の名城」ともよばれる小峰城。東日本大震災では石垣が崩れるなどの被害があり現在修復中ですが、多くの歴史ファンが訪れています。

今だから、伝えられることがある 小峰城の尽きない魅力を多くの人に！

観光ボランティアツーリズムガイド白河●会長　渡部武（わたべたけし）さん（白河市）

歴史の面白さをたくさんの人に伝えたい

観光ボランティアツーリズム白河の会長を務める渡部武さんは、2年前、東日本大震災の翌日にも自宅から車を走らせて小峰城を見に来ました。

「1カ月後の余震でさらに被害が広がって、もうガイドを再開するのは難しいだろうなぁと、ぼうぜんとお城を眺めているしかありませんでした」

渡部さんがガイドを始めたのは今から13年前。東京都品川区で生まれ育ち、長い間がむしゃらに働いてきた渡部さんは60歳を過ぎてからご夫妻で白河市へ移住しました。

白河を選んだのは、「のんびり田舎暮らしがしたい」という漠然とした理由から。大きな転機が訪れたのは、公民館主催の文化財教室に参加した移住2年目のことです。「それまで全く知らなかった」白河の歴史の面白さに気付かされた渡部さんが特に

（上）埼玉県から観光に訪れたグループにガイドする渡部さん。

（右）ガイドの時にはダジャレも交えながら、子どもたちにも分かりやすく伝えるよう心がけているそうです。「少しでも心に残ればうれしいですね」。

観光ボランティアガイド『ツーリズムガイド白河』は、4～6月、9月～11月上旬の土・日・祝日午前10時～午後3時まで、交代で小峰城に常駐しています。

【連絡先】白河観光物産協会　☎0248-22-1147

※9/21（土）・22日（日）には、「ご当地キャラこども夢フェスタ in 白河」が白河市城山公園で開催されます。（P9参照）

ひきつけられたのが、小峰城でした。

「結城氏から丹羽氏、松平氏と立派なお殿様が居城したのに、あまり知られていません。たくさんのいいエピソードがあるのにもったいないですよね」

もっと多くの人達に小峰城について知ってもらおうとボランティアガイドに参加した渡部さん。やがてその活動は生活の中心になっていきました。「お城があったからこそ、今の自分があると思うほど、小峰城に惚れ込んでいます」。

三重櫓を支えた400年前の職人の技

震災の年はほとんどいなかった県外からの観光客が、昨年からは戻り始めています。修復作業中のため城郭は立ち入り禁止の場所がありますが、渡部さんたちはそれを逆手にとったガイドを始めています。

「崩れた石垣がある一方で、本丸にある天守台の石積みは崩れずしっかりと三重櫓を守りました。これは、400年前に石積みを築いた石工の職人技によるものです。郭内に入れるようになったら、あらためてその石積みを見に来てほしいと伝えています」と渡部さん。

「城の無惨な姿を見たときは涙が出る思いでしたが、震災があったからこそ分かったこともあります。それを伝えていくのが、今生きている私たちの役目なのかもしれません」

三重櫓周辺を見学できるようになるのは、平成27年度の予定。渡部さんをはじめボランティアガイドの皆さんは、その日を心待ちにしています。

(左)白河市では、自分たちの住む地域の良さを知ってもらうために、昨年、市内の小学生に石垣の状況を説明しました。(写真提供・白河市)

(下)石垣が崩れた小峰城(平成23年撮影)。現在郭内に入ることはできませんが、公園から眺めることが可能です。(写真提供・白河市)

絆つないで

震災後、未就学児をもつ母親たちによる「わはは　母の輪ネットワーク　ははのわ」が発足。県内で安心して過ごすために、放射線に関する勉強会を行ったり、育児に役立つ情報を共有。不安や悩みなどを語りあい、楽しく子育てを行う活動をしています。

わはは　母の輪ネットワーク　ははのわ［福島市飯坂町］

URL: http://www.geocities.jp/hahanowa2012/

※遊び場の情報なども掲載されています。

▲旧堀切邸で開催された「おしゃべりCafé」

▲桜満開の乙和公園で遊ぶ子どもたち

安心して育児・生活するために。母親たちの、子育て交流。

「わはは　母の輪ネットワーク　ははのわ」は、震災から1年後の昨年4月に発足した子育てサークル。「放射線の不安がある中、福島で安心して育児をするためにはどうしたらよいか。子どもをもつ母親たちが不安や悩みを共有し、語りあえる場を持とう」と、代表の菅野恵子さんを中心に、サークルが結成されました。

夏には、「子どもたちを外で遊ばせたい」との思いから、市の協力を得て、自分たちで遊び場の放射線量マップを作成。炎天下、飯坂各地に足を運び放射線量の測定を繰り返しました。マップ制作後は、放射線を恐れるだけではなく、数値に対する理解が進み、除染済みの公園で子どもたちと親子で遊んでいます。その他に、芋煮会や足湯、チャイルドタッチセラピーなど、親子で野外・野内で遊ぶ企画を実施。定期的に専門家を交えた放射線に関する勉強会「おしゃべりCafé」も開催し、情報交換を行っています。

「震災当初は、子どもたちを外で遊ばせることも、悩みを打ち明けることもできず、追い詰められた気持ちだった。同じ境遇の仲間ができたことで、不安や悩みを相談でき、気持ちが楽になった」とメンバーの皆さんは口を揃えます。

自ら考え行動することで、安心して子育てできる環境を探ってきた「ははのわ」。「母親が笑っていないと、子どもも笑えないんです」と話す言葉の通り、わははっと親子の元気な笑い声が響いていました。

▲約3ヶ月の制作期間を経て完成した放射線量マップ

▲マップは、市内の公共施設などに設置されています

▲メンバーの皆さん